

# インフラメンテナンス国民会議近畿本部フォーラム 2020【報告】

近畿本部地域連携強化委員会  
委員長 河野 千代

日本技術士会の特徴である多部門・多業種集合体としての知名度向上、会員拡大等を目的として、標記フォーラムへの出展いたしましたので以下のとおり報告いたします。

## 記

日 時：2020年8月6日（木）10:00～18:00／2020年8月7日（金）9:30～17:00

開催場所：花博記念公園鶴見緑地

ハナミズキホール・付属展示場・花博記念ホール・鶴見スポーツセンター

出展目的：①日本技術士会（多部門・多産業集合体）の知名度向上、会員拡大

②建設部門以外の日本技術士会近畿本部会員の建設産業への誘導

参加者数：8月6日2,175名／8月7日3,702名（計5,877名）

屋内展示：63ブース76社（共同出展者13社含む）

屋外展示：6ブース10社（共同出展社4社含む）

収支報告：別紙のとおり

プログラム：

### 【8月6日】

開会式：

来賓 国土交通省 大臣官房審議官 市川 篤志 氏  
国土交通省 近畿地方整備局長 溝口 宏樹 氏

テープカット

国土交通省 大臣官房審議官（総合政策局担当）

市川 篤志 氏

国土交通省 近畿地方整備局 局長 溝口 広樹 氏

国土交通省 近畿地方整備局 企画部長 池口 正晃 氏

西日本高速道路株式会社 代表取締役社長 前川 秀和 氏

本州四国連絡高速道路株式会社 代表取締役社長

酒井 孝志 氏

阪神高速道路株式会社 代表取締役兼専務執行役員

関本 宏 氏

一般社団法人国土政策研究会 会長

脇 雅史 氏

一般社団法人国土政策研究会 理事兼関西支部長

霜上 民生 氏

一般社団法人国土政策研究会 理事兼関西支部事務局長

片岡 信之 氏

インフラメンテナンス国民会議近畿本部フォーラム WG 長

坂野 昌弘 氏

公益社団法人 日本技術士会 近畿本部 名誉本部長

福岡 悟 氏

日刊建設工業新聞 大阪支社長

小椋 隆志 氏

「近畿地方整備局のインフラメンテナンスの取組発表」

国土交通省近畿地方整備局 企画部長 池口 正晃 氏

「インフラメンテナンス国民会議近畿本部フォーラム取組報告」

インフラメンテナンス国民会議近畿本部フォーラム情報 WG 長 坂野 昌弘 氏



「人道吊り橋のメンテナンス技術相互協力協定について」

本州四国連絡高速道路（株） 長大橋技術センター長 萩原 勝也 氏

特別講演：「**貧困化する日本**」

一般社団法人 国土政策研究会 会長/元（国土交通省 近畿地方整備局長/参議院議員/  
自民党参議院議員幹事長） 脇 雅史氏

基調講演：「**橋**」が落ち、「トンネル」が崩壊する。～インフラ強靱化論～」

京都大学大学院 工学研究科 教授 藤井 聡 氏

パネルディスカッション：「**今後のインフラメンテナンスのあり方について**」

■コーディネーター

インフラメンテナンス国民会議近畿本部フォーラム 2020 実行委員長/一般社団法人  
国土政策研究会 理事兼関西支部長 霜上 民生氏

■パネリスト 国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課長 佐藤 寿延氏

■パネリスト 京都大学大学院 工学研究科 教授 藤井 聡 氏

■パネリスト 元大阪市都市計画局長・前堺市副市長/現大阪市立大学大学院 都市経営  
研究科・都市政策・地域経済コース 教授 佐藤 道彦 氏

■パネリスト インフラメンテナンス国民会議近畿本部フォーラム 情報 WG 長  
関西大学環境都市工学部 教授 坂野 昌弘 氏

■パネリスト 公益社団法人 日本技術士会 理事  
河野 千代



【8月7日】

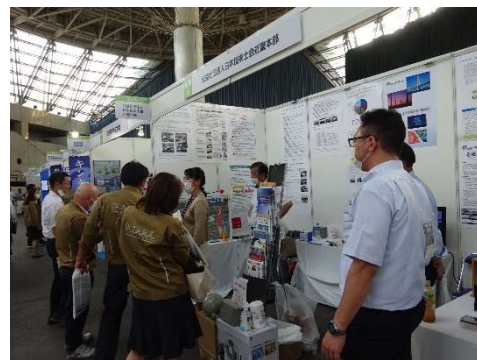
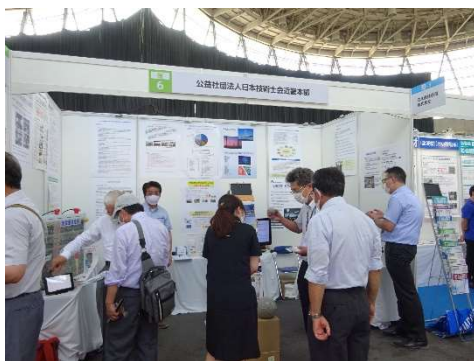
基調講演 「**関西の元気を“かたち”にするために**」

国土交通省 近畿地方整備局長 溝口 宏樹 氏

基調講演 「**国土交通省のインフラメンテナンスの取組と今後について**」

国土交通省 技監 山田 邦博 氏

日本技術士会ブースの様子



8月6日 日本技術士会ブース訪問者数：30名超（名刺交換無しの方含む）

8月7日 日本技術士会ブース訪問者数：60名超（名刺交換無しの方含む）

展示物

○日本技術士会近畿本部活動・部会活動の紹介（ポスター掲示）

○応用理学部門：ハンマーでコンと叩くだけ。[地盤透視技術]

- 上下水道部門：優れた耐衝撃性、耐摩耗性を実現。ポリウレタ塗装「割れない卵」
- 繊維部門：太陽光発電をする繊維「布帛型太陽電池」
- 機械部門：「水素燃料が叶える未来」
- 各部門からの技術等紹介資料（抜粋）を動画で放映

## 所見

当会ブースでは違った分野の技術を同じブース内で触れることができる特徴と併せてこれまで建設産業にない材料の利活用に興味を引く来場者が多く、一番賑わっているブースであったとの感想を主催者ならびに参加者の方々からいただいた。

建設部門登録者数は全体の54.9%を占めながら入会率は他の部門と比較して低いことから推測されるとおり、当会の需要は一部に限られ、業務での当会活用またはイノベーションの可能性を有する会としての認知度は低い。

例) 2020年3月末現在

建設部門登録者：約51,670名(全体の54.9%) / 入会者：6,556名(入会率12.6%)

機械部門登録者：約6,211名(全体の6.6%) / 入会者：1,690名(入会率27.2%)

電気電子部門登録者：約6,023名(全体の6.4%) / 入会者：1,798名(入会率29.8%)

建設産業は建設・上下水道・農業・機械部門の技術士が従事する産業であると共に生産性革命に向けたイノベーション技術の積極的活用を図っており、技術士資格活用、知名度向上に伴う会員拡大、他部門他産業とのイノベーション促進のビッグマーケットといえる。

また、本フォーラムは国土交通省をはじめとしたインフラ施設管理者、大学・高専、一般企業など5千人超が参加、産学官イノベーションに期待するフォーラムとして開催されており、このような場で「技術のプラットフォーム日本技術士会」をPRできたことは大変有意義であった。今後も継続的に参加・PRすることが確実な知名度向上に繋がると思われる。

最後に、部会ポスターの作成、準備・運営にご協力いただいた皆様並びにご来場の皆様に心から御礼申し上げますと共に、今回の活動が多業種集合体の特徴を持つ当会の認知度向上に向けた活動誘発と「技術のプラットフォーム日本技術士会」として更なる発展の一助となれば幸いである。

以上  
(文責：河野千代)